臨床成績を比較検討してみた。

第I形式： 周期の後半にHCGのみの単独連続投与。

第II形式： PMS, 並びにHCGによる所謂 One two cyclic gonadotropin therapy.

第III形式： 周期の中間期にPMSとHCGの大量混合投与。

第IV形式： 周期の前半にPMSの連続投与中間期にPMSとHCGの大量混合投与, 周期の後半にHCGの連続投与。

以上の4形式の臨床成績を比較すると, 第IV形式が最もすぐれており, 人為的排卵誘発のためにはPMSによるPremedicationの後にPMSとHCGの衝撃的な協同作用を期待することが望ましいことがわかった。この成績は排卵が単にLHのみの作用下に出現するのではなくFSHとLHの協同作用が必要である事を推想せしめる。一方ホルモン検定の結果, 所謂 hypergonadotropic hypogonadism のものの成功率は低く, Gonadotropin療法にも自から適応のある事が推想された。尚本療法中に所謂 Corpus luteum persistence を思わず症例を経験したので, これについても併せて, 報告する。

199. (演) Norluten の経口避妊に関する研究 (第1報)

(日大) 沢崎千秋, 山崎敬逸

菅井 茂, 木村慶造

(東京都交通局病院) 高木繁夫, 佐藤泰義

前田 勇

特に避妊指導を希望して来院した健康成熟婦人のうち44例を対象に Norluten (N) 又は N.+Ethinyl estradiol-3 methylether (3ME) を月経周期の第7日頃より20日間連続経口投与し, Pincus 方式によって検討し次の成績を収めつゝある。まずこの方法では26~30日間の人工周期が作られるが, 現在までに得られた対象周期は N.50mg33, N.10mg2, N.5mg+3ME25γ31, N.5mg+3ME50γ100周期以上である。このうちN.単独5mgでの排卵抑制効果は疑わしい。一般に内服開始後BBTは速やかに上昇するため2相性曲線を示すが, 継続中時には不定形曲線を認めることがある, 頸管粘液は著しい減少を示し, その性質も変化する。子宮内膜像は正常分泌像或は Progesterone 投与のそれとも異り, 腔内細胞に於ても松枝, 杉本氏係数は卵胞期初期の値が継続し繰返される事を認めた。また長期実験例でも異常細胞は認められない。服用中の消化器系その他に対する副作用は

少なく, この点では吾々の検討した其の他の Gestagen 剤に優る。然しN単独群では内服中の break through bleeding や中止後の silent menstruation の発生が少なくない。これは3-MEの混入によつて改善された。服用中の避妊効果は現在迄のところ100%を示し, 長期間継続服用しても其の後の性周期は速かに恢復した。受胎力の恢復に就いては目下追究中である。そこで以上の如き臨床実験と併せてこのような避妊効果の成立機序に就いても検討すべく基礎的にはもとより, その他の避妊用 gestagen 剤での成績とも比較したのでそれらに就いて報告する。

200. (演) 経口避妊薬 (Enovid) 長期使用経験

(仙台鉄道病院) 明城春彌, *宇野 弘

私達は過去6年間, 約8000人の主婦を対照とし受胎調節指導に当つて来たが, 現在行われている各種の方法には最も必要とする人達に対しては色々の難点がある。ために避妊失敗例が多く之等の解決法として人工妊娠中絶に走り依然としてこれの著減を示さない。1955年Pincus等により合成された 19-Nortestosterone (Enovid) は経口投与でも強力な排卵抑制作用があることが報告され, 彼は既に多くの集団投与実験を行つている。私達は昭和35年7月より B.B.T 測定一年以上に及び明らかに二相性で現在各種の方法で避妊を実行している健康な主婦20名を選び Enovid を長期に投与し, その避妊効果及び副作用を精細に調査したので報告する。投与方法は月経第5日目より20日間連続投与を1周期とし, 夕食後毎日5mgを服用せしめた。服用開始時より現在まで206周期に及ぶが, この間妊娠例はない。服用中止後2~5日目に規則的に消褪性出血が発来し, 異常性器出血は認められなかつた。嘔気・食慾不振等は一部症例に見られたが, それは最初の2~3日に過ぎず次回は軽減するか全く消失している。B.B.T 曲線は特殊な型を示し排卵は認められない。子宮内膜組織像は最初の数カ月はやや萎縮像を示すが次第に恢復し, 腎, 肝, 副腎機能検査に於いても全般的に異常は認められなかつた。又, 各種ホルモンの状態についても言及したい。

201. (演) TS-1476a による排卵阻止に関する臨床実験

(国立世田ヶ谷病院) 高島達夫, 阿美健治

田中 清, 渡部 晋

実験に用いた TS-1476a は 17α acetoxy-6methylpregna 4.6-diene-3.20 dione 2mgと Ethynylloestradiol-